

フィンドレー大学への協定留学 月例報告書 (3月分)

平澤美衣奈

(1) はじめに

フィンドレーでの生活も残すところあと1ヶ月となりました。毎日目が回るほど忙しいため帰国は現実味をあまり帯びません。そうは言っても帰国日は変わらないし時間は止まってくれません。さて今月もこの1ヶ月であった出来事について振り返っていきたいと思います。

(2) 授業について

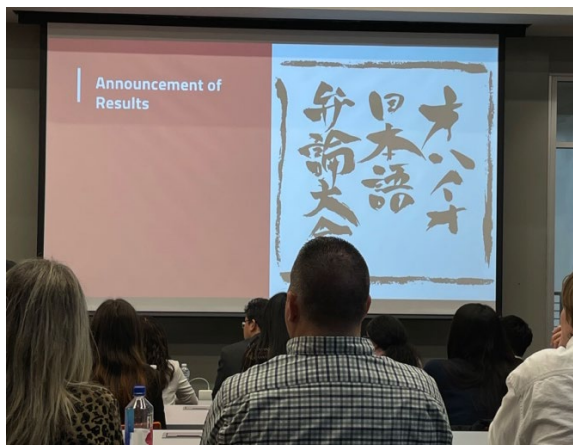
後期のレポートではあまり授業について書いていなかったので授業についても少し触れていきたいと思います。英語の授業は前期と全体的にさほど違いはありません。宗教の授業はやはり学部授業なので難しいですが、日本であまり詳しく学んだことがなかったのでとても興味深いことばかりです。信仰心の厚い友人も多いため授業で学んだことを近しく感じられたり、より多角的な視点から考えられたりするためとても学んでいて楽しいです。スピーチのクラスではセメスターを通じて4回のスピーチ課題が与えられます。今は丁度3個目のスピーチであるメディアリテラシースピーチを終えたところです。このクラスもまた学部の授業でネイティブスピーカーたちの前でスピーチをするのは、最初はとても緊張しましたが最近はようやく慣れつつあります。スピーチは日本語でもあまり自信はなかったのですがこの授業のおかげで自信がついたような気がします。

(3) イベントについて

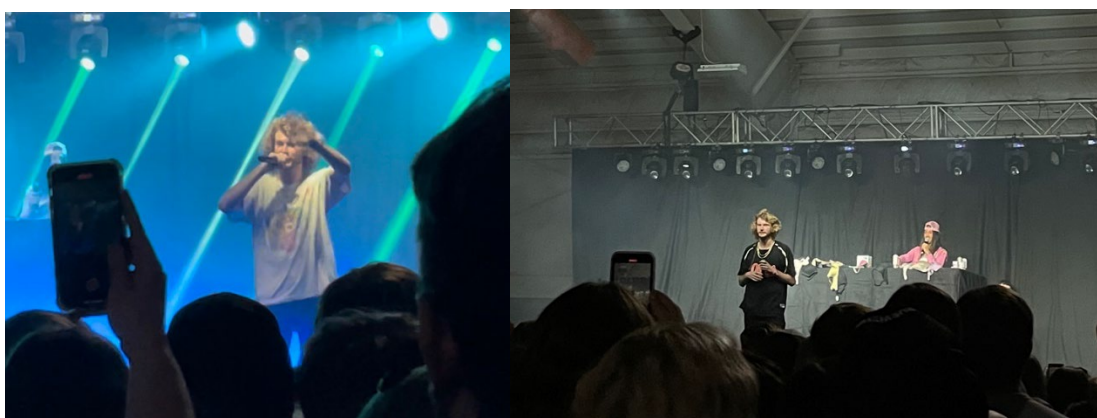
3月もイベントがたくさんありました。本レポートではその中のいくつか紹介していきます。学校のイベントではドラァグショーがありました。ドラァグショーはアメリカならではの文化として有名だと思いますが、実際に見たのは初めてで感動しました。ショーは終始熱狂に包まれていました。あれほど間近に見ることのできたドラァグショーは人生で一度きりの体験だと思います。



現地の日本語学習者向けに日本語スピーチコンテストがありました。私の友達も出場していて、練習にも何度か参加していたため私も緊張しました。友達はスピーチの中で私との思い出についても触れてくれており嬉しかったです。また日本でも会えるのがとても楽しみです。



学校に Yung Gravy が来ました。とは言っても多くの日本人にはあまり馴染みのないような気はしますが彼はアメリカで有名なヒップホップの歌手（ラッパー？）です。“アメリカのコンサート”経験として私も 20 ドルでチケットを購入しました。一曲しか知っている曲はなかったですがコンサートはとても盛り上がり楽しむことができました。ただ前座が 2 時間ほどとても長く痺れを切らした人々で会場は一時大ブーイングでした。



(4) Job Shadowing

学校の休みを利用して地域の新聞社の職場体験に行きました。友人が新聞社で働いているので自分で直接新聞社 Ogden に交渉して一日職場体験に行かせてもらいました。私は将来のキャリアの一つとしてマスコミも考えているので、とても良い経験になりました。まずは新聞社のデスクや巨大設備などを案内してもらったあと職場の方々に挨拶をしてみました。その後は病院にインタビューに行き、記事を書くまでの一連の流れを見学させていただきました。想像よりもずっと和気藹々とした職場で歓迎していただけ嬉しかったです。この経験を将来のキャリアのために生かしたいと思います。



(5) おわりに

3月も一瞬にして過ぎ去り帰国まであと1ヶ月です。しかしながらまだまだ予定は立て込んでおり、ゆっくりしている暇はありません。後悔のないように最後までやり抜きたいと思います。